

令和4年度 教育事業（地域力向上事業、生活・自立支援キャンプ）

オータムキャンプ in 大洲

1 事業概要

松山市の児童養護施設「愛媛慈恵会」の寮生を対象に、国立大洲青少年交流の家を拠点に1泊2日のキャンプを企画した。カヌー体験や野外炊飯等を行い、自立への支援と生活習慣の改善を図るとともに、寮生にとって楽しい秋の思い出となるよう、多様な体験活動を提供した。



2 事業の目的（ねらい）

児童養護施設に在籍している子供たちに、年齢や発達段階に応じて多様な体験活動を提供することで、達成感や自己肯定感の向上を図る。また、活動前後の準備や片付けを含め、幅広い年齢の仲間と協力しながら活動することで、協調性を高めることも目的とする。

3 企画のポイント

「自主性や達成感、自己肯定感の向上」、「仲間との協調性や相互理解」に焦点をあて、愛媛慈恵会の職員の方と協議しながら、事業内容を企画した。また、しおりに目当てを明記することで、子供たちが目当てを意識しながら活動できるようにした。明記した目当ては、進んで行動する（しおりをよく見て5分前行動を心がける）こと、友情を深める（様々な体験活動を通して、仲間と協力して取り組むことで友情をさらに深める）ことである。

- | | |
|--------|-------------------------|
| 4 主催 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 期日 | 令和4年10月22日（土）～23日（日） |
| 6 場所 | 国立大洲青少年交流の家・大洲市肱川 |
| 7 対象 | 愛媛慈恵会の寮生及び職員 |
| 8 参加人数 | 寮生 43名（幼児～高校3年生）・職員 15名 |
| 9 講師 | 国立大洲青少年交流の家職員 |
| 10 日程 | |



【1日目】

- 8:50 愛媛慈恵会 発
- 10:00 交流の家 着
- 10:10 入所式
- 10:40 小5以上：カヌー準備・練習（DVD）
小4以下：館内動物ラリー
- 12:00 昼食
- 13:00 小5以上：カヌー体験
小4以下：肱川遊覧
- 16:30 つどい
- 16:45 野外炊飯（カレー）
- 20:00 振り返り
- 20:15 入浴
- 21:00 就寝準備・就寝

【2日目】

- 6:30 起床
- 8:40 退所点検
- 9:30 野外炊飯（焼きそば）
- 13:00 自然散策
- 14:30 思い出発表
- 14:50 閉会式・写真撮影
- 15:20 交流の家 発
- 16:30 愛媛慈恵会 着



11 活動内容

1日目は、小学5年生以上はカヌーの準備・練習及びカヌー体験、小学4年生以下は館内動物ラリー、肱川遊覧を行った。その後、全体で野外炊飯を行い、班で協力してカレーを作った。

2日目も野外炊飯を行い、焼きそばを作った。午後からは敷地内にある鶴ヶ森で年齢や希望に応じて距離を変え自然散策を行った。活動毎のフィールドで秋の自然を見付けながら協力して楽しく仲間たちと活動することができた。

12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

***満足：76.7%** ***やや満足：23.3%** ***やや不満：0.0%** ***不満：0.0%**

- カヌーは始め乗った時に怖かったけれど、時間が経ったら慣れたのでうれしかった。
- みんなで作ったカレーや焼きそばがおいしかったです。
- みんなと一緒に山に行ったことが楽しかったです。

13 事業の成果（参加者の様子を含む）

館内動物ラリーでは、子供同士で相談したり話し合ったりしながら施設の様子を知ることができた。

カヌー体験では、はじめは「やりたくない。」と言っていた子供もいたが、活動を通して、自信が付き、楽しんでカヌーを漕いでいる様子が見られた。活動時には不安そうな表情を見せる子供もいたが、仲間たちと楽しそうに取り組むことができていた。肱川遊覧では大洲市で有名な鶴飼で使う屋形舟に乗り、大洲城を眺めながらゆったりと肱川を遊覧した。川を進む船に喜び、歓声を上げたり、水面近くを飛ぶ鳥や水の生き物も見付けて興味深そうに見つめたりするなど楽しんでいる様子だった。また、一緒に船を漕ぐ体験もできてとても満足そうにしていた。

野外炊飯では班で話し合い、やってみたい作業を伝え合うなどお互いコミュニケーションをよくとる姿が見られた。また、火起こし、薪割り、野菜を切るなどそれぞれの役割を果たしながら協力してカレーや焼きそばを作ることができた。さらに、小学生が割った薪を高校生に手渡し、その際に高校生が「ありがとう。」と言って受け取るなど年齢を超えて協力する姿も見られた。

子供たちからは「日頃接する機会が少ない寮生とも話ができて楽しかった。」「カヌーを上手に漕げた。」など肯定的な感想が多く聞かれた。子供たちはオースタムキャンプにおいて達成感や自己肯定感を感じることができ、有意義な事業になった。また、「今度はクライミングに挑戦したい。」といった新たな体験活動への意欲を感じる感想も聞かれた。

14 事業の課題

野外炊飯において包丁で指を切った子供がいた。安全な使い方や運ぶ際の注意点などは職員から説明していたが、結果的に軽症とはいえ、けがをした子供が出たのは反省点である。危険な場面の事前確認や子供用の包丁の準備やカバーの使用といった道具・環境面における配慮を徹底することでより安全に事業を実施できるようにしていきたい。

参加者の年齢が幅広く、余裕をもった時間設定をしていたが、一部の参加者にとっては自由時間が多く時間を持て余す状態になっていた。自由に仲間と遊べる時間があって良かったという意見がある一方で、何をしても良いかわからなかったという意見もあり、短時間でできる活動を用意し、選択できるようにするなど、様々な状況に対応できるようにしていきたい。

(担当：企画指導専門職 高木 啓吾)

